

介護施設で注意が必要な感染症について

- 高齢者は重症化しやすいため、早めの受診を勧めてください。適切に医療が受けられるよう平時から施設の管理医や利用者の主治医と調整しておきましょう。
- 通所施設ではサービスの併用により他の施設へ感染が拡がる場合があります。施設間での連絡をし、感染対策に努めてください。
- 入所施設では職員からの感染例が散見されます。職員や職員の家族の健康状態を把握し、体調が悪い場合は早目に休むようにしましょう。

インフルエンザ・新型コロナウイルス

令和7年-8年の冬、インフルエンザは例年より早い時期から大きな流行
新型コロナウイルス感染症は、近年、夏と冬に流行がみられています

【インフルエンザ】昨年10月頃から患者数が急増。例年、高齢者施設から集団発生の報告を多数受けています
【新型コロナウイルス感染症】令和5～7年は夏に流行しましたが、年末年始に集団発生の報告もありました。どちらの感染症も軽症の人からの感染の拡がりを疑う事例が多くみられます。マスクの着用、咳エチケットやこまめな手洗い・手指消毒、室内の換気、共有部分の消毒などの感染対策をお願いします。

感染性胃腸炎

主な原因であるノロウイルスは感染力が強く、対策を誤るとまたたく間に集団感染になることも
高齢者は重症化しやすく、入院となることも多い。一昨年度は市内でも死亡例発生

【感染性胃腸炎とは】

ウイルスや菌で汚染した食品の喫食や、患者の吐物や糞便を触り手指についたウイルスが口の中に入ってしまうことにより感染します（経口感染・接触感染）。主な症状は、嘔吐、下痢、食欲不振、腹痛、発熱、頭痛など。高齢者では嘔吐、下痢による脱水や嘔吐物の誤嚥による誤嚥性肺炎等で重症になることがあるので注意が必要です。

【発生状況】

1年を通して発生していますが、とくに冬季を中心に流行します。一昨年度は高齢者施設における集団感染後の死亡事例が発生しました。令和6年度は夏頃にも高齢者施設から集団感染の報告を受けています。

【感染対策について】

感染性胃腸炎の主な原因となるノロウイルスは非常に感染力が強く、少量のウイルスでも感染します。

○アルコールは消毒の効果がありません。環境消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用しましょう。

嘔吐物や下痢便で汚染された場所は0.1%希釈液を使用してください。

○嘔吐物は広範囲に飛散している可能性があります。壁も含め半径2mの範囲まで消毒しましょう。

○症状軽快後も感染者の便には1か月程度ウイルスが排泄されるため、汚染されやすいトイレなどの消毒等の対策を継続しましょう。

○職員の感染防止やウイルスを媒介しないため、吐物の処理やおむつ交換の際には、換気を行い、ガウンや手袋、マスク、ゴーグルを着用し、処理後は石鹸で十分に手を洗いましょう。

詳細は別紙（ちょっと気になる感染症）をご参照ください。

結核

大津市で結核と診断される人の約60%が高齢者

1/3は介護施設の従事者・利用者です

早期発見には定期的な胸部レントゲン検査（結核健診）が有効です

大津市では毎年、30～40人程度の方が結核と診断されています。その約60%が高齢者であり、過去に感染した結核菌により発病しているものと推定しています。とくに高齢者は食欲不振や倦怠感、体重減少など呼吸器以外の症状しかでない場合もあり、受診の遅れなどにより発見が遅れる事例もあります。

今年度、結核患者の発見により調査の対象となった施設は4施設でした。接触者健診を行った結果、利用者に感染者が発見されました。

結核の早期発見のためには定期的な胸部レントゲン検査（結核健診）が有効です。要精密検査となった場合は、結核の可能性があるため、早期に医療機関を受診してください。

65歳以上の国民には年1回の結核健診が義務付けられており、大津市では「肺がん結核検診」として65歳以上の市民は無料で検査を受ける事ができますので、通所サービス等の利用者に対し、受診をお勧めください。

高齢者の入所施設では、施設管理者に入所者の年1回の結核健診の実施と保健所への報告が義務付けられています（感染症法第53条の2）のでご協力をお願いします。

また、近年、結核高まん延国（フィリピン・ベトナム・中国・インドネシア・ネパール・ミャンマー等）出生の結核患者も増加しています。今年度は介護施設の技能実習生が結核と診断されました。とくに日本語の理解が十分でない外国出生者については、健診を受けても結果説明が理解できない、体調が悪くても受診先が分からないため、受診が遅れる場合があります。施設長には外国人労働者の健康面の支援もお願いします。

H I V / A I D S

H I V の治療は進歩し、エイズは「死の病」ではなくなりました。

一人ひとりが、「H I V / エイズ」を正しく知ることから始めていきましょう。

H I V は、ヒト免疫不全ウイルスのことで、H I V に感染すると免疫機能が徐々に低下し、約10年の潜伏期間の後にエイズを発症します。エイズは発症するまで自覚症状がないため、H I V 検査により、早期発見、早期治療でエイズの発症を防ぐことが大切です。

H I V 感染は肝炎ウイルスと同じで、血液や体液を「感染性のあるもの」として取り扱う標準予防策で感染を予防できるものです。H I V 感染者だから特別な対策をとらないといけないということはありません。

H I V は治療法の進歩により、H I V に感染したとしても、感染を早期に発見し、治療の早期開始、継続をすることによりエイズの発症を防ぐことができ、H I V に感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。H I V 陽性者の予後が良くなっていることから、H I V 陽性者・エイズ患者の高齢化が進んでいます。また、高齢化や他の病気の併発等により、自立困難で介護を要するH I V 陽性者が増えてくることが考えられ、H I V 陽性者の受入先として、福祉施設への期待が高まっています。H I V に対する誤った認識から介護サービスの提供を拒否することは感染者への人権侵害に当たります。偏見や差別なく必要な介護サービスが受けられるよう、一人一人がH I V の事を正しく理解いただきますようお願いいたします。

レジオネラ症

昨年度、市内でも老人ホーム入居者の感染事例がありました
加湿器、循環式浴槽、空調設備などの清掃や消毒を適切に行いましょう

レジオネラ症はレジオネラ菌の感染により主に肺炎を発症する感染症で、この菌は土壌・池・水たまりなどに生息する常在菌です。ぬめりの中で増殖し、汚染された水のエアロゾルを吸い込んで感染します。

循環式浴槽、空調設備、加湿器等の清掃や消毒が適切に行われず、施設等で集団感染が起きることがあります。施設では循環式浴槽や空調設備、浴室（シャワーヘッド・排水溝など）の定期的な清掃や消毒、加湿器の水の交換を行い、汚れやぬめりが生じないようにしてください。循環式機械浴槽等の機器は、通常の清掃以外にも、取扱説明書通りにメンテナンスを行いましょう。

自宅の浴室での感染を疑う事例も散見されますので、高齢者の訪問サービスで浴室の清掃をされる場合は可能な範囲でシャワーヘッド、排水溝や追い炊き用配管の清掃をお願いします。

こんな時には報告が必要です

平成17年2月22日厚生労働省通知に基づく報告

報告基準

- 感染症による重篤患者または死亡者の発生時
- 集団発生時（10名以上又は全利用者の半数以上）

○大津市保健所保健予防課	077-522-7228
○大津市福祉指導監査課	077-528-2912